

# いちひろ

TENRIKYO  
ICHIHIRO BRANCH CHURCH

〒 635-0812 奈良県北葛城郡広陵町広瀬 306

立教 179 年  
平成 28 年 11 月 17 日  
第 296 号

天理教一広分教会  
☎ 0745 (57) 0076

おことば抄

大きな心を持ちて、  
小さい処  
十分の理に運ぶなら、  
皆々所々成程と言う

(明治 39 年 3 月 22 日)

解説ものごとをすすめる上での大切な視点を教えられた。この場合、ある行事を大々的に催すことについて伺われた中でのお言葉である。

すなわち、「そこで順序の理論す」と前置きされて「鮮やかにして、ほんにこれでこそと言うは、道と言う、理と言う」といわれた。お道のものが取り組む姿勢を間違つてはならないと、念を押された。

それは、大きい行事をしたために、あちらでどうだ、こちらでもこうだ、というようなことがあつてはならない。いわば、手から水がもるようなことではどうにもならないではないか。折角の行事が無駄になるではないか。そこを心得てくれ、との仰せである。もし、そんなことでは理の順序が間違ふことになり、お道のありかたにそぐわないではないか。

大きいことを望むのは、それはそれで十分に分かるけれども、それがために不都合な事態が起こってきては、何にもならないではないか。まず、小さいことに心を配ることがなければならぬ。そして、集中して、確実にものごとを進めてくれ、といわれた。

私たちは、とくに大きなことになればなるほど、気持ちが高ぶってしまう傾向がある。大きいことをしてはならない、という意味でなく、いくら大きいことであっても、それは小さな事柄が積み重なつてのものであることを忘れてはならない。

こうした戒めは、ただ行事に関わることに限定されるものでなく、日々の歩み方にこそ学ぶべきである。(み)

## 野良日誌

をやの懐住まいを感じて

## 安井幹直

## 第二日目

飛び地とお世話することになったサクランボが、実は村でも有名になるくらい美味しい実をつける樹だと知り、ここはなんとしても守ってやらなければならぬという妙な正義感が芽生えてきた。小生はサクランボの樹の上から覆いかぶさるように生えている蔓(つる)を駆除しようと考えていた。

孫子曰く「敵を知り己を知れば、百戦危うからず」なので、やはり蔓と戦う前には蔓についてよく知らなければならぬと思い、インターネットで少し調査してみた。

某サイトによると、蔓植物は、「丈夫な茎や幹を作る代わりに、細くて長い蔓を伸ばすことにエネルギーを傾ける。普通の木が、幹を太らせて一人で立ち上がるのに対し、蔓植物は他人によりかかりながら、さっさと光の当たるところまで出て、葉を広げ、太陽の光を独り占めしてしまう。しかし光の少ないところでは育たない陽樹が多いため、林縁の植物と言える。」

なんと、蔓は自分自身では立つことすらできないくせに、他の樹に巻き付くことで、それよりも高く育とうとするやっかいなヤツ！心のなかで私は、こいつにだけはサクランボの樹は渡さないと誓いました。

調査を続けると、蔓は意外にも駆除するのが難しい植物だということが徐々に分かった。切ってもすぐに新しい芽が生えてくるそう、しかもやっかいなことに根も複雑に広範囲にわたって生えているとのことだった。

インターネットの情報を鵜呑みにするわけではないが、多くのサイトで、除草剤を使うべきだと書いてあったので、やはり、除草剤を使うべきかとも考えた。一応、念のため除草剤がいくらで購入できるのか調べてみると、ラウンドアップというが三千円くらいで、ジェネリック製品が二千円くらいすることが分かった。まだ私には高いのか安いのかもよくわからないが、なるべくなら農業は使わずにやりたいと考えていたこともあって、とりあえず購入は見送った。敵を知れば百戦危うからずと言うものの、高校野球の奈良県予選大会で、創設間もない学校が初戦でいきなり優勝候補の天理高校と対戦するような気持ちになった。時として、敵を知りすぎることにも弊害があると知った。知らぬが

仏とはよく言ったものである。

結局、勝てる気がしないまま、かといって別の方策も見当たらず、当初の予定通りノコギリを購入し、そして、いきなりの決戦の地へと赴いた。

いざ勝負！と思い、サクランボの樹の根本から生えている木の幹のような蔓を切ってみると意外にも簡単に切り落とせた。なるほど、樹は年輪があるように硬いことに特徴があるが、蔓はそのような堅さは持ち合わせていないのだ。これはもしかするとイケる！ がぜんやる気が出てきて、切り落とした蔓から伝うようにサクランボの樹の枝にまとまりついている蔓を除去していった。意外にも早く決着がつきそうな気がしてきた。やはり人生において、苦勞して手に入れたものには価値があり、他人に便乗して得られたものにはそんなに価値もなければまた長続きもしないのと似ているな、と改めて人生の教訓を学んだような気になった。

ところが、あっさりその期待は裏切られる。蔓を取っても、取ってもなかなか減らないのだ。一通りの蔓を除去し終わったころには、全身びっしょり汗をかき、時間はすでに2時間も経過していた。放置されていた約半年間で、サクランボの樹の茂り具合がばっと見、半分以下になる

くらいまでに樹を覆っていたのだ。恐るべし蔓の繁殖力。

しかし、当面の脅威は去ったのである。自分を誇らしく思いつつ、いきなりの難敵に手こずったものの、なんとか勝利を収めた余韻に浸っていると、隣のおっちゃんの声をかけてくださった。

「兄ちゃん、刈った草は燃やしたらええ。一遍にやったら役場の人が飛んでくるけど、ちょっとずつやったら、こちら辺はまあわからへんから大丈夫や。」

よし、明日は草、燃やすぞーと意気込んで、この日の作業を終わりにすることにした。

ところで、後日、蔓についてさらに調査を進めると興味深い記事を発見した。

中央園芸という会社のブログに「やぶがらしを駆除するには」という記事がある。ヤブガラシも蔓草の一種で、日本ではどこでも見かける雑草らしい。ブログに掲載された写真を見てみると、なにやらうちのサクラノボの樹にいたヤツのようにも見える。

この記事によると蔓には蔓の役目があって、その役目が終わったことを蔓に伝えることで、蔓は自らその生涯の幕を閉じるらしい。つまり、枝や幹に巻き付いている蔓をほどいてやり、それをくぐる輪っかにしてそっと地面に置いておくだけ

で、そうしてから一カ月ほどにはその部分が枯れているという。

こんなに簡単な方法があったのか！まさに目から鱗！とは言うものの、サクラノボの樹の蔓はすでに除去してあるので、本当かどうか実際に試すにはいたっていないのだが。本当のような嘘。もとい、嘘のような本当。来年はぜひとも試してみようと思う。

さらに、興味深かったのは、その理由である。ヤブガラシやスギナなどの雑草には、「大地を再生する」という目的があって生えてくるらしい。原爆が投下された広島は、以後70年は植物は育たないと噂されていたが、翌年には、たくましく生き残った地下茎からスギナ、タンポポなどの雑草が芽を出したという。

そうか、雑草にもやはり大切な役割があるのか、神様はこの世界にムダなものは何一つ創られていないのだと妙に感心した。畑をする上でジャマに思える雑草にも神様の思いが込められているというのは、気づきは頭のなかでの理解というよりも、もっと直接的で生々しい体験として小生にその爪痕を残した。

日々、暮らしているなかで、「ジャマ」に思えるものの一つに病気があると思う。健康でいられることは神様のお働きのお陰とは、よく耳に

する。今日も元気でありたいと思う。そのことに異論を唱えるつもりはないが、一方で、健康ではない状態、つまり、病気になるたとき、畑の雑草のように（たまにヤブガラシやスギナのように厄介なヤツもいる！）、病気にも役目があることを私はどれだけ受け入れられているのだろうか自問自答する。

現在、たまたま（もしくは必然的に？）風邪をひいているが、これは日ごろの私の心遣いが悪かったのだと自分を責めてみたり、秋の大祭などの繁忙期でなくてよかったのだと空喜びしてみたり、はたまた、ひと月後に控えた奈良マラソンを目前に、オーバークワークしないようにとの神様の親心ではないかと思ったりしている。それが正しいのか、もしくは全く分かっていないのかすら分からないが、おそらく、正しい答えにたどり着くことが大切なのではなくて、その過程、神様と自分が会話をすること自体が、「風邪」も目的なのかなあとも思う。

そうこうしていくうちに風邪は治り、また普通の生活に戻るのだろうか、やはり、お道を信仰している私たちにとって神様と心のなかで会話をするとすることは常々心がけたいと思う。物事がいいように進んでいるときも、思うようにいかないときもである。(つづく)

□五十一人のおつとめ奉仕者をお与えいたただこう ◆勇もうさづけの取り次ぎに。

秋季大祭役割表 (平成28年10月17日) 月曜日 午前10時執行

祭主		會長		者		者		方	
會		長		扨		贊		指	
り		を		座		前		後	
ど		を		り		半		半	
り		て		づ					
笛		安井和栄		とめ		中川修		安井清二	
ちゃんぽん		安井幹直		長		安井哲郎		安井清二	
拍子木		中川光子		安井清二		安井清二		安井清二	
太鼓		池尻喬信		安井幹直		安井幹直		安井幹直	
すりがね		佐々木登喜子		中川修		安井英樹		安井英樹	
小鼓		西井千賀子		安井和栄		安井幸枝		安井幸枝	
琴		安井哲郎		中川ヤヨイ		安井美有		安井美有	
三味線		安井幸枝		大橋美美代		山本理恵子		山本理恵子	
胡弓		中川ヤヨイ		安井妙子		安井美有		安井美有	
地方		兵市會長		安井道信		安井幹直		安井幹直	
中川修		西井英樹		安井道信		安井幹直		安井幹直	

□挨拶、講話 會長。献饌長 安井清二 伝供 出口道信、安井哲郎、西井英樹  
 ▽本年の実績↓初席者8名。おさづけの理拝戴者0名。修養科生1名。検定講習0名。三日講習会0名。

# 編集後記

▽ようやく、予告しておりました『おふでさきを学習する』(四八〇頁)が発刊できました。予定より一ヶ月延びたこと、お詫び申し上げます。また、まだかとの催促にお応えできて一安心です。一冊1000円くらいで頒布することができると思います。もし知り合いに、欲しいという方がおられましたら、連絡下さい。冊数には十分に余裕があります。

▽14日から風邪かなと思っていましたところ、15日になって、本格的なものになりました。汚い話ですが、鼻水がとまりません。目頭が熱っぽく、ティッシュボックスがはなせません。みるみるごみ箱がいっぱいになりました。それにしても、秋深し、という時期に、この気温はいかかなものか。ちょっとおかしいですね。おそらく、私たちの心のあり方が、乱れているのではないのでしょうか。

▽テレビがサッカー日本代表チームがサウジアラビアチームに勝利したことを伝えております。いずれにしても、皆、親神様のごとです。サッカーゲームは相手のゴールにボールを放りこむことが勝敗を決めます。考えてみれば、じつに単純なことです。にもかかわらず、国の威信をかけた戦いといわれます。しかも監督がその国人でないというのが、またおもしろいですね。